



寝ころんでても楽しく



障害児施設 癒やしの場オープン

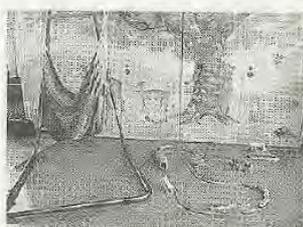
湧き出る泡に夢中の男の子

東京都板橋区の心身障害児総合医療療育センター（君塚葵所長）に10月19日、入所中の子どもを癒やすためのプレイルーム「マニキュライフわくわくするーむ」がオープンした。子どもが障害の程度に関係なく遊べるように寝ころんでいても天井の絵を見て楽しめる工夫をし、おもちゃ選びにもこだわった。設置を支援したのはNPO法人子ども健康フォーラム。プレイルームを設置する小児医療施設はあるものの、設備が不十分なものが多くという。この現状を変えるた

教育家庭新聞 2013年11月18日

め、同フォーラムはマニキュライフ生命保険㈱の特別協賛や中央共同募金会の協力で支援プロジェクトなどに取り組む。同フォーラムの篠原佳則事務局長は「同センターの人たちと知恵を出し合い、子どもよりどころになるように作った」と話した。プレイルームの装飾には女子美術大学が協力。緑を基調に、木の力でリラックスするイメージでデザインされている。柱や壁、天井に描かれている動物を見ながら、子どもがストーリーを作って遊べるような仕掛けもある。おもちゃはボタンを押すと光ったり音が鳴ったりと、刺激を楽しむものや、車いすを降りに遊べるものなどが置かれている。手術を終えてベッドにいる子どものために、移動式のおもちゃも導入した。

君塚所長は「手術やリハビリで家を離れている子どもにとって、プレイルームは楽しい思い出になると思う」と話した。



ニースにちじた活動ができるプレイルーム

マニキュライフ わくわくするーむ
板橋の心身障害児総合医療センターに完成
東京都板橋区にある心身障害児総合医療療育センターは、NPO法人子ども健康フォーラムが

「大きな木のある小茂根（住所）の丘」をコンクリートに、中央の独立柱を木に見立て、かつてこの丘にいた動物たちをイメージして、10月に完成させた。これは、NPO法人子ども健康フォーラムがグ・アートプロジェクトに取り組む子どもの療養環境改善活動の一環として、マニキュライフ生命保険の特別協賛と社会福祉法人中央共同募金会の協力を得て、2008年から始動したもの。全国で9番目、東京では初の設置となった。

「大きな木のある小茂根（住所）の丘」をコンクリートに、中央の独立柱を木に見立て、かつてこの丘にいた動物たちをイメージして、10月に完成させた。これは、NPO法人子ども健康フォーラムがグ・アートプロジェクトに取り組む子どもの療養環境改善活動の一環として、マニキュライフ生命保険の特別協賛と社会福祉法人中央共同募金会の協力を得て、2008年から始動したもの。全国で9番目、東京では初の設置となった。

心身障害児に 癒やしの部屋

板橋

板橋区小茂根の心身障害児総合医療療育センター（君塚実所長）に19日、障害のある子どもたちの心を癒やすプレイルーム「マニキュライフわくわくるーむ」がオープンした。写真。

療育環境の改善に取り組むNPO法人「子ども健康フォーラム」（長嶋正實理事長）が、マニキュライフ生命保険の寄付で設置・運営を支援している。都内で



の開設は初めてで、全国では9カ所目になる。

壁画はヒーリング・

アート（癒やしの芸術）を学ぶ女子美術大の学生が担当。水彩と色鉛筆の優しい色調でクマやムササビ、リスなどを描いた。木の幹や葉には動物の隠し絵が施され、それを見つけ出す楽しさもある。

同ルーム担当の看護師、後藤和恵さん（38）は「軽く触るだけで音楽が流れたり、光が点滅する玩具が充実している。カーテンで仕切り、思春期向けのスペースも確保したので幅広い年代の子ともたちに喜ばれると思う」と話した。

療養生活を楽しく

子ども健康フォーラムが
療育Cにプレイルーム

NPO法人子ども健康フォーラム（長嶋正實理事長）は、東京都板橋区にある心身障害児総合医療療育センター（君塚実所長）と、同センター内に設置したプレイルーム「マニキュライフわくわくるーむ」のオープンングセレモニーを開いた。

マニキュライフわくわくるーむは、子どもの療養環境を改善するため、同フォーラムが、



プレイルームと後藤氏ら
（手前右）

マニキュライフ生命保険（ギャビン・ロビンソン社長兼CEO）と中央共同募金会の協力を受けて、医療施設による整備を支援しているもの。全国で9件目、関東では初となる。同センター内の約40平方メートルを改修し、障害の程度や年齢にかかわらず遊べる玩具を配置、女子美術大学の協力により壁や天井に動物や木のヒーリングアートを描いた。同フォーラムの運営委員長を務める篠原佳則安井建築設計事務所名古屋事務所企画部長によると、「既存の独立柱を大木に見立て、大きな木のある小茂根の丘をコンセプトに、子どもたちのよりどころになる守られた空間を創出した」という。

セレモニーでは、長嶋理事長が「いたい・つらいより楽しいと思える療養生活を送ってほしい」と趣旨を説明。君塚所長は「手術にリハビリに頑張る子どもたちの思い出になると思う」と謝辞を述べた。

ロビンソン社長は、この取り組みが「さらに全国に広がることを望む」と語った。